

《宮城県などが主催する原子力防災訓練に参加しました》

10月30日、宮城県など関係自治体*が主催する「平成27年度原子力防災訓練」が行われ、当発電所も参加しました。

今回の訓練では、「宮城県沖を震源とする地震に伴い、配管が破れ原子炉を冷やす機能などが失われたことで、原子炉圧力容器の圧力が上昇し、女川原子力発電所2号機から放射性物質が放出される事態になる」との想定のもと、発電所の本部から関係自治体などへの通報連絡や、仙台市にある暫定オフサイトセンターとの連携訓練などを実施し、関係機関との連携や連絡体制の確認などを行いました。

また、この訓練に合わせ、代替非常用冷却海水ポンプによる原子炉を冷やすための送水訓練や放射線量が高い場所で現場の状況を調査する現場偵察用ロボットの操作訓練など発電所独自の訓練を実施しました。

※宮城県、女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町



発電所の本部訓練

《女川原子力発電所環境放射能測定センターの取り組み》

女川原子力発電所では、当発電所周辺の環境において発電所からの影響がないことを確認するため、環境中の放射線の強さの測定や、農産物、海産物、水や土などの試料を定期的に採取して放射性物質の濃度の測定を行っています。

今回は、発電所の構内にあり、これらの測定業務を行っている「女川原子力発電所環境放射能測定センター」について紹介いたします。

当センターでは、地域の方々にご協力いただきながら、当発電所周辺の様々な試料を採取・測定しています。放射性物質の濃度をより正確に測定するために、試料の裁断・乾燥・灰化という「前処理」をしっかりと行う必要があります。

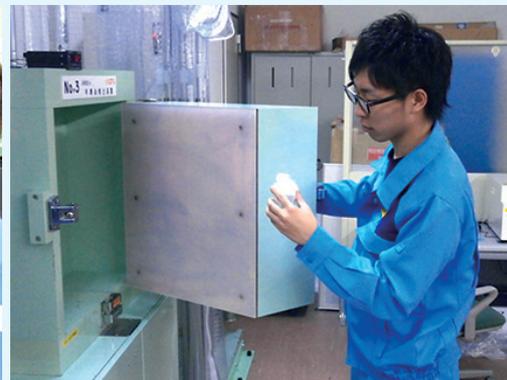
地域の方々にご協力いただきながら、試料を採取しています。



環境・燃料部 環境・化学グループ
三宅 聡至 (仙台市出身)



採取した試料を裁断し、乾燥・灰化させます。



灰化した試料を測定器に入れます。



測定結果を確認します。



日々、試料の測定結果に異常がないかを確認しています。



環境・燃料部 環境・化学グループ
佐藤 真理 (山形県出身)

《交通安全活動を実施しました》

9月30日（水）、秋の全国交通安全運動に合わせ、当発電所および構内協力企業各社が連携し、安全運転意識の向上を目的とした交通安全活動を行いました。

当日は出勤時間帯に合わせ、発電所周辺道路にて交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼び掛けました。

これまで月4回程度、こうした活動を行っており、今後も継続して実施し、交通安全に努めてまいります。



のぼり旗を掲げて並ぶ当発電所および構内企業各社社員



交通安全を呼びかけます

《ボランティア清掃を行いました》

9月24日（木）・25日（金）、女川町小屋取地区ならびに塚浜地区において、当社社員41人が休暇を有効活用し、ボランティア清掃を実施しました。

当日は、前の週の大雨や強風の影響により道路に散乱した枝や落葉を清掃したほか、浜辺に打ち寄せられた流木やごみなどを回収しました。

参加した社員は、枝や落葉、流木やごみなどを拾い、さわやかな汗を流していました。



清掃に汗を流す社員ボランティア



たくさんの流木やごみを拾いました

新規制基準適合性審査状況のお知らせ（10月末現在、審査会合65回開催）

《基準津波の策定について》

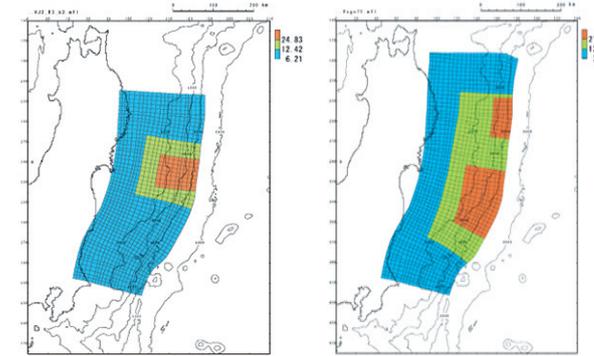
2号機の適合性審査では、基準津波の策定について審議されています。

基準津波高の想定にあたり、東北地方太平洋沖型の地震を考慮した断層モデルのほか、広範囲の津波の痕跡高を再現した断層モデルを新たに設定して評価することについて説明し、原子力規制委員会からは、これらの評価方法について理解が示されました。

当社が申請時に評価している基準津波高（O.P.*1+23.1m）の妥当性については、モデル毎の津波高のばらつきも考慮（不確かさの考慮*2）し、今後の審査において説明していきます。

※1：O.P. 女川の工事用基準面のこと。
O.P. ±0.0mは、東京湾平均海面（T.P.）-0.74mに相当

※2：不確かさの考慮 科学的に合理性のある範囲で、さまざまな数値シミュレーションを行うこと



東北地方太平洋沖型の地震を考慮した断層モデル

広範囲（青森県北部～茨城県南部）の津波の痕跡高を再現した断層モデル

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

検索

注：モデル内の色分けは、断層のすべり量の分布を示す（■< ■< ■）

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.063マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

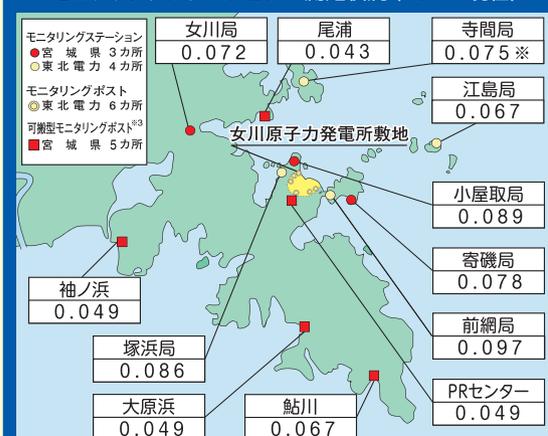
※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、毎年度（4月1日）の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングステーションの測定状況（10/31現在）



単位：マイクロシーベルト/時

（参考）モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	平成23年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	平成23年3月13日	1.8～21※4
〈地震発生以降毎年度（4/1）の値と至近値〉	平成24年4月1日	0.063～0.098
	平成25年4月1日	0.055～0.076
	平成26年4月1日	0.046～0.065
	平成27年10月1日	0.042～0.072
	平成27年10月31日	0.044～0.063

単位：マイクロシーベルト/時

※モニタリングステーション（寺間局）については、設備更新により10/26～31まで欠測のため10/25の最大値を記載。